

二つのサミット

「サミット」とは、山頂を意味し、首脳の地位をそれになぞらえた主要国首脳会議のことを指します。国内では、これを自治体首長に置き換えて、さまざまな会議が行われています。先般も、二つのユニークなサミットが、相次いで本市において開催されました。9月27日に行われた「第4回中四国・瀬戸内クルージング・サミット」と、10月4日・5日に行われた「第4回古代山城サミット」です。

「中四国・瀬戸内クルージング・サミット」は、この地域で公共マリーナを有している瀬戸内市、三豊市、新居浜市、福山市、高松市の5市の市長と関係者が集まって意見交換をし、クルージングを中心とした、瀬戸内海のより積極的な活用方策を考えていこうというものです。毎回、実際にクルージングを体験しながら、それぞれの地域の持つ魅力を再発見していく企画もあり、瀬戸内海の活かし方や今後の取り組みを考えていく上で、大変勉強になっています。

「古代山城サミット」は、西暦663年の白村江^{はくすきのえ}の戦いに敗れた大和朝廷が、唐・新羅軍の侵攻に備えて、対馬から畿内にかけて造らせた山城の遺構が所在する市・町の代表が集まり、意見交換などを行うものです。日本書紀などの文献に記録が残っている本市の「屋嶋城^{やしまのき}」を始めとした「朝鮮式山城^{ちようせんしきやましる}」と、記録はないものの実際に遺構が残っている「神籠石系山城^{こうごいしけいやましる}」を合わせて現在、22の山城が確認されていて、その所在市町がメンバーとなってサミットを行っています。この古代山城が築かれたのは、今からさかのぼること1350年ほど前。悠久の時を超え、古代山城の遺構の存する地域が一堂に集い、連携と交流を図り、お互いの絆を確かめようというのがこのサミットの目的の一つです。屋島を世界遺産に、との屋島小学校6年生の感動的な学習発表もあり、高松大会もおおいに盛り上がりました。

来年は、瀬戸内海が日本で最初の国立公園として指定を受けて80周年を迎える記念の年です。屋島からの眺望が指定の決め手となったと言われる瀬戸内海国立公園に、密接に関連するこの二つのサミットの開催は、記念行事などの気運を盛り上げていく絶好の契機ともなりました。